

平成28年度

事業活動報告

社会福祉法人 すこやか福祉会

障害者支援施設
かたくりの里

〒953-0103

新潟県新潟市西蒲区橋本88番地1

TEL 0256-82-1811

FAX 0256-82-1815

社会福祉法人すこやか福祉会 障害者支援施設 かたくりの里は、全国身体障害者施設協議会に加盟する施設として、『障害者の権利に関する条約』の理念を遵守し、「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」「可能性の限りない追及」「共に生きる社会づくり」という全身協の基本理念を実現するため、ここに倫理綱領として定めます。

全国身体障害者施設協議会 倫理綱領

社会福祉法人 全国社会福祉協議会
全国身体障害者施設協議会

1. 私たちは、基本的人権を尊重し、利用者一人ひとりのその人らしい生活を支援します。
2. 私たちは、日々の実践を検証し、利用者に安全、安心、快適なサービスを提供します。
3. 私たちは、自己研鑽に努め、専門的な知識と技術と価値観をもって、良質なサービスを提供します。
4. 私たちは、利用者に必要な情報をわかりやすい方法で提供し、要望にはすみやかに対応します。
5. 私たちは、広く重度の障害のある方々のためのサービスを開発し、提供します。
6. 私たちは、重度の障害のある方々をとりまく環境の改善と福祉文化の醸成に努めます。
7. 私たちは、関連機関・団体、地域住民等とともに、事業を展開します。
8. 私たちは、透明性を堅持し、健全かつ活力ある経営にあたります。

社会福祉法人 すこやか福祉会

職員行動規範

前文

私たち社会福祉法人すこやか福祉会職員は、自らの行動に責任と自覚を持ち、地域社会の一員として行動するための基本的な指針として「社会福祉法人すこやか福祉会 職員行動規範」を定め、これを職員相互で常に確認し合い遵守します。

1 社会的ルールの遵守・コンプライアンスの徹底

私たちは、強い意志の下、関係法令、法人の定めた諸規程はもとより、法人の理念や社会的ルールの遵守を徹底します。

2 個人の尊厳

私たちは自らの先入観や偏見を廃し、利用者の個性や気持ちを真摯に受け止め、誠実な態度で、利用者一人ひとりに接します。

3 人権の尊重

- (1) 私たちは、利用者の人権と人格を最大限に尊重し、個性や感性の違いを認め、全ての人が平等であるという考えの下に行動します。
- (2) 私たちは、体罰、暴言、威圧的・強制的対応、無視、差別的対応、セクシャルハラスメント、身体拘束、プライバシーの侵害など、人権侵害行為は決して行いません。
- (3) 私たちは、人権侵害行為や虐待を発見した場合は、直ちに上司に報告し、「虐待防止委員会」を速やかに開催し適切に対応します。

4 安心で安全な暮らしの保障

- (1) 私たちは、リスク管理に万全を期し、事故防止および安全の確保に努めます。
- (2) 業務上知り得た個人情報決して外部に漏らしません。退職後も同様とします。

5 自己選択・自己決定権の保障

私たちは、利用者の特性に応じた働きかけや説明を行い、可能な限り自己選択・自己決定ができるように支援します。

6 満足度の高いサービスの提供

私たちは、利用者の意思やニーズを十分に把握し、「やすらぎ」と「生きがい」のある生活が送れるようにサービスを提供します。

7 社会参加の促進

私たちは、社会資源の活用や情報提供を積極的に行い、利用者の社会参加の促進に努めます。

8 専門性の向上

- (1) 私たちは、利用者支援の専門性を高めるため、常に努力と自己研鑽に努めます。
- (2) 私たちは、各種資格の取得に努め、専門性の向上を図ります

(施行期日)

この規範は、平成26年1月1日から施行する。

平成28年度かたくりの里 事業報告

<目 次>

	ページ
1 基本方針	1
2 平成28年度事業方針	1
3 障害福祉サービス事業	3
施設入所支援	3
生活介護	3
短期入所	4
地域生活支援事業	4
指定特定相談支援事業	5
4 職員体制	6
5 生活支援課業務報告	6
生活支援係	6
入所支援係	7
地域支援係	7
療護係	8
総務係	14
相談支援係	15
業務委員会	15
権利擁護	15
安全	18
生活向上	20
防災	21
環境整備	22
研修	23
日中活動	25
情報管理	30
業務検討会	31
6 外部行事参加状況	32
7 補助金・助成金事業報告	32

1 基本方針

施設の目的

障害者支援施設 かたくりの里は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、入浴、排せつ及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供その他必要な施設障害福祉サービスを適切かつ効果的に行うことにより、障害者の福祉の増進を図ることを目的とする。

施設の方針

障害者が日常生活または社会生活を営むための支援は、障害の有無にかかわらず等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念に乗っ取り、すべて障害者は、個人の尊厳が重んじられ、その尊厳にふさわしい支援を保障される権利を有するものとする。すべて障害者は、社会を構成する一員として社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられるものとする。利用者の尊厳、人権とプライバシーを重視した対応に心掛け、充実した人生を安全で快適な生活環境のもとで過ごせるように配慮する。また、高齢化等による2次的な障害の防止に努めると共に、地域社会との幅広い交流を通して健全な生活が営まれる開かれた施設の運営を行う。

施設の中だけで生活が完結することではなく、社会の構成員として社会参加し、障害者問題に対する地域住民からの理解と認識を深めるための啓発活動も必要である。利用者の社会生活を促進し、地域生活・在宅生活へ移行するために必要な援助や地域等との連絡調整を積極的に行う。

○利用者個人の尊厳を尊重し、適性、障害の特性その他の事情を踏まえて個別支援計画を作成します。これに基づき利用者主体のサービスを提供するとともに、その効果について断続的な評価を実施し、利用者に対して適切かつ効果的なサービスを提供します。

○生活の場としての施設支援サービスの提供とともに、地域生活への移行を意識した社会生活力向上プログラムや積極的な社会参加を促進していくプログラム、日中活動を提供します。

○開かれた施設を目指し、地域交流スペースの活用と地域との連携を図ります。

2 平成28年度事業方針

- (1)「やすらぎと生きがい」を合い言葉に、明るく楽しい生活空間を創造する。
- (2)利用者のニーズを把握し、個別支援計画を策定し実施する。
- (3)利用者が積極的に社会参加できるよう社会生活力向上プログラムを計画し実施する。
- (4)利用者が主体的に活動できるよう自治組織と協力する。
- (5)計画相談支援の事業を行うことにより、障害福祉サービス利用者の利便性を向上させる。
- (6)利用者の苦情等に対しては、真摯に受け止め解決を図るよう努める。

■平成28年度 中期方針の振り返り

□福祉サービスの自己評価

身障協ケアガイドラインの活用

チェック項目を絞りチェックを実施・集計し、抽出した課題について検討をした。PDCAサイクルに沿ってまとめるまで至らなかったため、来年度はPDCAサイクルを更に意識し継続して検討を行う。

□多様化する障害への対応

今年度は高次脳機能障害の研修へ職員を派遣し、専門性の向上を図った。

研修委員会を中心に施設内研修を積極的に開催した。記録用のフォーマットを整備することで職員への周知を図った。

□「ノーリフトポリシー」の周知と腰痛等予防対策検討

安全委員会が腰痛等予防対策を担当し、生活向上委員会が福祉機器の導入検討・使用方法の周知について担当する。

□権利擁護事業への取り組み

○虐待防止の組織作りについて

虐待防止マネージャー研修に職員を派遣した。

虐待防止マネージャーとして配置し組織するために、来年度も引き続き虐待防止研修会へ受講する。

○成年後見制度利用支援

成年後見制度利用支援を行った。

職員会議にて報告し、ケース記録に残すことで全職員への周知を行った。

○従事者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施

権利擁護委員会より、毎月の職員会議にて虐待防止のための意識向上ポイントを報告した。

虐待防止に関する施設内研修会を開催した。

3 障害福祉サービス事業

■施設入所支援（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

定員50名(ALS居室利用者は定員内数で利用する)
 障害支援区分4(50歳以上は区分3)以上が該当する。

入退所動向

退所 平成28年 10月男性 11月女性 合計 2名
 入所 平成28年 6月男性 合計 1名

平成29年3月31日現在

性別	利用者数	障害支援区分				年 齢		
		3	4	5	6	最小年齢	最高年齢	平均年齢
男性	33	1	6	6	20	34歳7ヶ月	80歳 0ヶ月	62歳8ヶ月
女性	17	0	1	4	12	25歳6ヶ月	75歳 8ヶ月	62歳5ヶ月
	50	1	7	10	32	男女平均年齢	62歳 7ヶ月	

平成28年度 施設入所支援 利用状況・稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
月末登録者数	51	51	52	52	52	52	51	50	50	50	50	50
延べ人数	1525	1571	1537	1612	1605	1516	1508	1440	1529	1538	1387	1535
入院・外泊	5	10	23	0	8	49	77	80	22	12	13	15
稼働率(%)	101.6	101.3	102.4	104.0	103.5	101.0	97.2	96.0	98.6	99.2	99.0	99.0

ALSの利用者は、平成25年5月より入所利用開始した。

3月末時点で、定員50名に対して利用者50名となっている。

平成28年度の年間稼働率は100.0%

平成29年3月末待機者

男性 9名
 女性 5名 計 14名

■生活介護（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

定員 58名

施設入所は区分4(50歳以上は区分3)以上

地域生活(通所等)区分3(50歳以上は区分2)以上が該当する。

支給量は施設入所、地域ともに月数-8日

営業時間は8:30～17:00。土日と年末年始の送迎サービスは実施しない。

平成29年3月31日現在

平成28年度 通所 登録利用者 31名

性別	利用者数	障害程度区分					年 齢		
		2	3	4	5	6	最小年齢	最高年齢	平均年齢
男性	21	2	3	5	5	6	19歳11ヶ月	66歳0ヶ月	51歳 9ヶ月
女性	10	0	1	5	0	4	19歳11ヶ月	64歳10ヶ月	45歳 2ヶ月
	31	2	4	10	5	10	男女平均年齢	49歳8ヶ月	

平成28年度生活介護 利用状況・稼働率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設利用者	1117	1170	1132	1192	1191	1122	1126	1066	1138	1142	991	1134
通所利用者	250	261	247	240	262	260	246	246	237	237	224	249
延べ人数	1367	1431	1379	1432	1453	1382	1372	1312	1375	1379	1215	1383
稼働率(%)	78.5	79.5	79.2	80.0	80.8	79.4	76.3	75.4	76.4	76.6	74.8	76.9

平成28年度年間稼働率 77.8%

■短期入所（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

平成28年度利用登録者数 36名 男性 20名 女性 16名

地区	男性	女性	短期利用の理由（人）	特記事項
西蒲区	7	5	介護者の負担軽減(9)本人希望(2)	生活介護併用(9) 入所待機(2)
西区	1	0	介護者の負担軽減(1)	
南区	3	2	介護者の負担軽減(3)本人希望(1)	生活介護併用(1)
燕市	6	8	介護者の負担軽減(14)	生活介護併用(6)
加茂市	2	0	介護者の負担軽減(2)	
三条市	0	2	介護者の負担軽減(1)本人希望(1)	
長岡市	1	0	介護者の負担軽減(1)	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	26	28	25	28	27	25	26	25	25	23	24	27
利用日数	153	159	135	149	150	136	136	131	142	137	136	159

定員 5名 併設福祉型短期入所サービスを提供した。

平成28年度年間稼働率 94.3%

ほぼ半数の利用者が生活介護を併用し、短期入所と日中活動を併用する短期入所(Ⅱ)を算定。宿泊をとまなうサービス提供なので、施設入所支援係との連携が不可欠であり、入退所に伴う事務処理、荷物のチェック等、利用者には迷惑がかかることがないように職員間での連絡・報告を確実にする必要はある。

□国土交通省短期入所協力事業

自動車事故が原因で、重度の後遺症を持つため、日常生活動作について常時又は随時介護が必要な状態の方を受け入れる施設として、平成27年10月に指定を受けた。

■地域生活支援事業(日中一時支援)

地域生活(居宅生活)されている障害者家族等の介護負担の軽減、障害者の見守りや生活の介護を目的にサービス提供を実施した。入浴の確保、社会参加を目的にした方に対してもサービスを提供した。生活介護非該当利用者1名にサービスを提供した。

4 職員体制

■人員配置

職 種 等	人数
施設長	1
医師(嘱託)	1
サービス管理責任者	3
看 護	3
作業療法士	1
生活支援員	35
管理栄養士	1
事務職員	1
運転員	1
特定相談支援事業	
管理者(兼務)	1
相談支援専門員	2

※生活支援員は兼務・パートを含む人数

人員配置による報酬算定状況

施設入所支援

- ・夜勤職員配置体制加算
- ・重度障害者支援加算
- ・栄養マネジメント加算

生活介護

- ・人員配置体制加算 (1.7:1以上)
- ・福祉専門職員配置等加算 (専門職員 25名)
- ・常勤看護職員等配置加算
- ・リハビリテーション加算

短期入所

- ・栄養士配置加算

※福祉・介護職員処遇改善加算(Ⅰ)5.0%を算定

■会 議

すこやか福社会定例会議	毎月 1回	
運営会議	毎月 第2水曜日	16:30～
業務検討会	毎月 第1火曜日	
職員会議	毎月 第3火曜日	

5 生活支援課 業務報告

■生活支援係

□個別支援計画の取り組み

【活動内容】

- ・生活支援員が利用者を担当することで役割分担を行い、計画書の作成が円滑に実施できた。
- ・カンファレンスを利用者、及び生活支援員・看護師・作業療法士・管理栄養士・相談員等、各専門職種の参加にて実施したことによって、利用者のニーズに対して多職種で支援内容を検討しケアプランに反映できた。
- ・原則として中間評価を6か月後、終了時評価を12か月後に実施。又、再アセスメントを、前回作成したアセスメントシートを基に実施したことで、利用者の思いや身体状況等の変化を情報収集しやすくなった。
- ・利用者の急な状態変化、ニーズの変化には、随時カンファレンスを開催してケアプランの再検討を行うことにより円滑に支援を実施できた。
- ・意思疎通が困難な方への同意については、家族面会時の説明や家族宛に郵送で対応した。

- ・完成したケアプラン一式は、支援計画作成会議録と共に回覧した。
- ・ケアプランマニュアルの更新を行った。

【反省・課題】

個別支援計画について、各担当に依頼するアセスメントに個人差があった。来年度はアセスメントの重要性について再度周知し、計画につなげていきたい。

■入所支援係

【活動内容】

- ・利用者がよいよい生活を送れるよう、業務検討会、生活向上委員会にて決定した改善提案を実施した。
- ・入院時の病院、家族との連絡調整、利用者に必要な支援を行った。
- ・入退所時の必要な支援、調整を行った。
- ・成年後見制度利用の為の支援を行った。

【反省・課題】

職員不足が続く中、利用者も年々介助量や要望が増えてきている為、様々な場面での介助の見直しが必要になってきている。利用者についての話し合いをグループ単位で行いたかったが、なかなか機会が持てず他の会議等での議論になってしまった。

今後はグループの再編成を行い、グループ、グループリーダーの役割を見直しグループリーダーを中心に問題点、改善点を話し合い解決していきたい。

■地域支援係

□生活介護(通所)

今年度新規受け入れ者数 3名

【活動内容】

- ・相談、利用調整
- ・送迎の実施
(実施区域 新潟市西蒲区、燕市、弥彦村)
- ・食事、入浴、排泄等の介護や日常生活上の支援
- ・日中活動の提供
- ・個別支援計画の作成

日 課

- 9:00～ 送迎
- 10:00～ 施設到着・バイタルチェック・お茶
- 10:15～ 入浴・リハビリ
- 12:00～ 昼食・休憩
- 13:00～ 入浴・リハビリ
- 13:45～ 日中活動
- 15:00～ 送迎

□短期入所事業

今年度新規受け入れ 4名

【活動内容】

- ・相談、利用調整
- ・送迎の実施
- ・入退所時の受け入れ
- ・他のサービス機関との連携
- ・ケース会議への参加
- ・西蒲区障がい者地域自立支援協議会への参加(年4回)
- ・特別支援学校実習生の受け入れ

【反省・課題】

(通所事業)

- ・介護福祉機器の活用により安全な介助と職員の腰痛予防に取り組めた。
- ・インフルエンザやノロウイルス等による感染症予防のため、施設到着時には手洗い、うがいを励行し感染予防に努めた。
- ・昼食や帰宅時間に入浴者が間に合わないことが増えた。サービスの質を低下させないような工夫をしていきたい。
- ・曜日により、利用者数に差が生じていた。職員の状況も踏まえた上で、利用者数の確保につなげたい。

(短期入所事業)

- ・必要に応じ地域支援係職員の勤務時間を変更し、短期入所者に対する介助を入所支援係と連携することで、介助量の多い短期入所希望者を受け入れることができた。
- ・ヒヤリハット・事故報告が数件あり、情報の共有、職員間の連携不足の解消が必要。
- ・利用希望の依頼は多かったが、空き部屋が確保できないケースがあった。

■療護係

□看 護

【活動内容】

1. 利用者の健康管理

- ・朝の申し送りから情報を得て、利用者の体調のチェックを行った。
- ・利用者の体重、体温、血圧測定を月1回行った。
- ・必要に応じて臨時に受診した。

2. 利用者の医療処置

- ・排便チェック表に添って排便状態を把握し、必要に応じて浣腸、坐薬等で排便の介助を行なった。
- ・膀胱洗浄、留置カテーテル交換、褥創処置、軟膏処置、包交、点眼、点耳、点鼻、爪切り、経管栄養滴下、注入、痰吸引等を行った。
- ・使用した医療物品の消毒、高圧滅菌等を行った。
- ・医療廃棄物を管理し、処理の依頼をした。

3. 利用者の通院介助

- ・通院の送迎を支援した。
- ・主治医への状態報告、主治医からの指示を受け次回の予約確認をした。
- ・調剤薬局へ処方箋を送り、薬の受け取りをした。
- ・個人のカルテに受診内容の記録を行い、必要事項はケース記録等でスタッフに伝達した。
- ・医務室の受診予定表に次回の予約を記入した。

4. 利用者の服薬の管理

- ・主治医から処方された薬を医務室で保管した。
- ・内服薬は個人別に投薬車で管理した。
- ・利用者の1日分の内服薬の準備を行なった。朝、昼、夕、眠前それぞれのトレーに薬を用意した。
- ・誤薬を防ぐために、薬を用意した人がチェック表にサインをした。別の職員(看護師か生活支援員)が薬の再確認しサインを行なった。
- ・昼の薬は看護師が、朝、夕、眠前の薬は介護職員が責任をもって利用者に投薬した。

5. 嘱託医診療の支援

- ・大西洋司先生に月2回往診時、診察の介助を行なった。
- ・利用者の体調管理に関する相談をし、容体が悪化した場合紹介状をいただき他科受診を行った。
- ・利用者の入退院があったときは報告した。
- ・インフルエンザ予防接種の準備と接種の介助をした。
- ・大西先生が主治医になっている利用者の定期処方を毎週1回行なった。
現在処方してもらっている42人の利用者を四つのグループにわけ、毎週月曜日にファックスを送り、翌週の水曜日に薬を受け取りに行った。
- ・肺炎球菌予防接種の準備と接種の介助を4名行った。

6. 安藤医院(泌尿器科)の往診介助

- ・月2回、水曜日の午後往診していただき19人の方の主治医になっていただいた。14人の方のフォーレ交換と19人の方の薬の処方を依頼した。
- ・往診1週間前に個人の定期薬をファックスで依頼した。
- ・フォーレカテーテルの交換、膀胱洗浄の介助を行った。
- ・月始めの診療時に往診費と利用者の請求額を集金し支払いを行なった。

7. 利用者の入退院の準備および介助

- ・看護情報を作成し入院時用意した。
- ・病院に持っていく薬等の準備をし、介護スタッフに衣類等の入院準備を依頼した。
- ・入院中は、支援員とともに病院との連絡を行った。
- ・退院が決まったときは病院の担当看護師より必要な情報を受け取った。

8. 利用者の体重測定、検温、血圧測定を月1回行った。

9. 年間保健衛生計画の実施

- ・インフルエンザ予防接種
施行日:平成28年 11月

接種人数:利用者50名 職員66名

・健康診断 年2回

1回目実施日:平成28年8月25日(木) 午後13時30分～16時00分

健診項目:検尿、採血、心電図、血圧測定、診察

参加人数:51名

2回目実施日:平成29年2月18日(木)午後13時30分～16時00分

健診項目:検尿、採血、心電図、血圧測定、診察

参加人数:49名

胸部レントゲン撮影:21名

10. スタッフ研修の実施

- ・バイタル測定等の説明。
- ・新人職員へのオリエンテーション。
- ・ノロウイルス講習
- ・スキンケア講習
- ・鼻腔口腔吸引、経管栄養の滴下、半固形注入の研修と評価

11. その他

処置に使用する薬剤、医療材料、物品等の購入及び管理。

【反省・課題】

- ・経管栄養を行う利用者が6名になった。
- ・大西先生に利用者の症状によっては他の医療機関への紹介状を書いていただき、スムーズに受診をすることができた。
- ・利用者の健康診断が昨年同様に行えた。
- ・今年度インフルエンザにかかった利用者、職員はいなかった。また、感染性胃腸炎にかかった職員、利用者とも感染は見られなかった。
- ・利用者によっては、入院や手術などが数例あった。

入院状況一覧(平成28年4月～平成29年3月)

	入院治療	
	人数	期間(日数)
内科	5	112
小児科	1	22
精神科	1	90
脳神経外科	2	17
皮膚泌尿器	1	11
合計	10	252

病院別受診状況(平成28年4月～平成29年3月)

病院名	受診件数
岩室リハビリ病院	200
ひらさわ歯科	91
県立吉田病院	82
西蒲メディカル病院	41
大西医院	39
設楽皮膚科	28
佐潟荘	31
金子整形外科	28
大島病院	13
燕労災病院	14
安藤医院	9

※ その他	件数
済生会第2病院	1
新潟脳外病院	1
計	2

新潟大学付属病院	9
渡辺耳鼻科	10
いわぶち整形外科	13
坂井眼科	10
新潟病院	4
新潟医療センター病院	3
後藤内科クリニック	6
西新潟中央病院	4
おおくら耳鼻科	5
もたにメディカルクリニック	5
松崎歯科	2
※その他	2
計 24カ所	649

□機能訓練

【活動内容】

1. リハビリテーションマネジメントの実施

- ・1日25名程度のリハビリテーション実施計画書に基づいた個別訓練を実施した。
- ・機能訓練室やベッド上での個別リハビリや自主訓練を行うことで、機能の維持・回復に努めた。
- ・その他、ビーズ手芸や編み物などの手作業を中心とした作業活動を提供し、作品を仕上げていくことで達成感を得つつ楽しく充実した1日になるよう工夫した。

2. 歩行補助具(車椅子や歩行器など)や日常生活用具(ストマなど)の申請・メンテナンス

- ・各利用者の身体機能に合った車椅子や歩行器を紹介することで、移動を快適に、かつスムーズに行うことが出来るようアプローチした。
- ・日常生活上で感じる不自由さの相談を受け、適切な福祉用具などの選定にあたった。

【反省と課題】

今年度も訓練時の事故は無く、無事に終えた。ただ、利用者の身体機能の低下により介助量が増えた事で、OT一人では対応できずに困る事があったが、支援員との連携と協力により解決した例もあったので、今後も継続していきたい。

機能訓練と平行して行っている作業活動は、通所サービス利用者と共にすることも増えた。作業活動を行うことで、利用者同士の会話のきっかけになったり、気分転換になったりしているようなので、今後もさまざまな活動を提供していきたい。

昨年度から機能訓練室の利用者が増えたことで、場所の確保や利用者同士のトラブルが心配されたが、時間や場所の工夫で、トラブルなく終えられた。多くの方が安心して参加できる場所作りを心がけていきたい。

□栄養

【活動内容】

1. 栄養ケアマネジメントの実施

利用者全員に対して栄養ケアマネジメントを実施した。

毎月の体重測定から見える健康リスクをかかえている利用者の割合は、月平均で25.7%であった。

前年より若干減少していた。また、2月の健康診断の結果では、アルブミン値が低値の利用者の割合が71.4%であった。

また、嚥下面に問題のある利用者が増加している。近隣の嘱託医や歯科医師に相談し、安全に食事を食べてもらえるように対策(受診や検査)をとった。

口腔リハビリが必要な利用者には、口腔リハビリを行った。一定の効果はあった。

2. 安全かつ衛生的に食事の提供を行う

異物混入件数は、7件あった。異物の内容は、毛やビニール片、調理機器の劣化で生じた汚れや部品であった。以前に比べて件数は減少している。

季節を感じられる献立作成を給食委託会社にお願ひし、以下のような行事食を提供した。

今年度実施した行事食

月	行事	献立
4月	施設開所日(1日)	赤飯
	花見らしい献立(8日)	桜ご飯、桜餅又は水ようかん
	果物(15日)	いちご
	昭和の日(29日)	ハムカツ、エビフライ
5月	端午の節句(5日)	太巻き、いなり、柏餅
	果物(15日)	いちご
6月	夏至(21日)	アイス
	魚の日(23日)	鮎の塩焼き
7月	七夕(7日)	ちらし寿司、そうめん汁など
	海の日(18日)	冷やしうどん
	土用の丑の日(30日)	うな重
8月	山の日(11日)	BBQ
	お盆(15日)	白身魚フライと海老フライ
9月	重陽の節句(9日)	菊ご飯
	十五夜(15日)	ぜんざい
	敬老の日(19日)	栗ご飯
	秋分の日(22日)	鮭わかめご飯、おはぎ
10月	体育の日(10日)	メンチカツ
	ラーメン屋台(17日)	ラーメン屋台(塩味、醤油味)
11月	文化の日(3日)	栗ご飯
	寿司屋台(7日)	生寿司など
	七五三(15日)	今川焼
	勤労感謝の日(23日)	赤飯
12月	冬至(20日)	南瓜料理
	クリスマス(25日)	クリスマスメニュー(鶏肉の足、ケーキ)
	大晦日(31日)	大晦日メニュー、そば
1月	正月(1日)	おせち料理 赤飯
	魚の日(3日)	海鮮丼

	七草(7日) 鏡開き(11日) 小正月(16日)	七草粥 (餅つき行事と重なった) 五目いなり寿司
2月	すし屋台(1日) 節分(3日) 鍋の日(15日~17日)	生寿司 豆菓子 15日 キムチチゲ、16日 棚田鍋、17日 すき焼 から1つ選択
3月	桃の節句(3日) 鍋の日(6日~9日) 春分の日(20日) すし屋台(24日)	ちらし寿司 6日 長崎ちゃんぽん風煮込みラーメン鍋 7日 海鮮味噌煮込みうどん鍋、8日 すき焼 から 1つ選択 おはぎ 生寿司

3. 給食会議の実施

毎月第3木曜日、14時から実施。

内容:利用者の要望や意見、調理や献立についての要望、行事食についてなど

利用者の声には可能な範囲で応えるように努めた。

4. 嗜好調査

①期 間:9月1日~10日に実施した。

対象者:入所52名、通所・短期利用者27名(実施期間中に利用された利用者)

回答者数:入所37名、通所・短期利用者26名

回答率:入所71.2%、通所・短期利用者96.3%

調査方法:聞き取り

内 容:①食事全体について(色合い、盛り付け、温度、味) ②料理について(味、匂い、硬さ)③要望・意見

嗜好調査でいただいた要望、特に、食べたいものについては、順々に献立に取り入れていった。

②鍋料理の前にも、食べたい鍋料理を聞き取りした。

すき焼きの希望は、一番多く聞かれるのですが、ぞうすいや麺類を入れた鍋の希望も多く聞かれ、2月と3月に実施した時は、それらの希望を取り入れた。

今年は、野菜が高騰し、利用者に満足していただける量の野菜を使用することができなかった。

5. 健康教室

日付	内容	担当者	参加者数
5月30日	「脳トレゲームで脳を鍛えよう」	作業療法士	13名
6月22日	「食中毒予防について」	管理栄養士	14名
8月24日	「酸餌ってなあに?」	生活支援員	12名
9月23日	「乾燥について」	生活支援員	3名
10月26日	「ノロウイルス食中毒予防と最近の話題」	管理栄養士	10名
12月28日	「脳が汗をかくってどういうこと?」	作業療法士	13名

1月26日	「口臭予防について」	生活支援員	8名
2月22日	「花粉症について」	生活支援員	8名
3月22日	「大気汚染について」	生活支援員	8名

【反省・課題】

今年も異物混入があった。食事に対する要望・意見も多くいただいた。その点で安全で喜ばれる食事の提供を行えていないように思える。よって、給食委託会社の職員の入れ替えの度に、味や盛付など食事についての苦情をいただくので、給食委託会社とのコミュニケーションを密にして利用者に満足していただける食事の提供に努めたい。

栄養ケアマネジメントは、次年度に継続していく。特に、利用者の嚥下レベルの変化に注意し、問題があると思われる利用者に対しては、専門家の意見を聞きながらケアをし、「口から食べる」期間が長く続くように支援していきたい。

■総務係

施設運営事務全般に関わる業務、総務・運転業務・施設管理等を行った。

【活動内容】

- ・職員健康診断 夏期 8月 冬期 1月・2月に実施
- ・エアコン室外機点検を10月・11月に実施
- ・電気昇温貯湯槽点検・雨水濾過装置点検を4月に実施
- ・エレベーター点検を3か月ごとに実施(その他の月はリモート点検を実施)
- ・電気設備点検を隔月で実施
- ・窓・網戸清掃を4月・11月に実施
- ・床ワックス清掃を4月・8月・12月に実施
- ・浴槽レジオネラ検査を12月に実施
- ・施設内を巡視し給湯・雑用水・エアコン設備等の運転状況確認、節電の実施
- ・備品、設備等の破損物修理をその都度実施

平成28年度 修理内容内訳

修理箇所	件数	修理箇所	件数
エアコン関係	10	居室 蛇口	1
洗濯機、乾燥機	7	介護リフトチェア	2
PC関係	3	呼気コール	1
ナースコール	3	食洗機	1
ストレッチャー	3	下膳車	1
居室 コンセント	3	PHS	1
居室 電灯	2	プリンター	1
ベッド	2	機械室配管	1
ショートステイ用TV	2	厨房食器洗浄機	1
共有 ロールカーテン	2	汚水排水つまり	1
電話機	1	福祉車両	1
施設内ネットワーク中継機器	1	共有部洗面台 電気系統	1
厨房 給湯器	1	エレベータ	1

居室 換気扇	1	エアーマツポンプ	1
厨房排風機	1		

【反省・課題】

年間の修理依頼をまとめると、エアコン関係が8件で27年度より9件減少したが、最も多くなっている。2階食堂・集会室、2階図書コーナー系統のKHP8系統でEHP設備への入れ替えを実施(これにより全12系統のうち5系統でEHP設備への入替を完了)。また、KHP2、3など4系統が故障の頻度が高いため、29年度にEHPへの入替が必要となる可能性がある。このほか、洗濯機、乾燥機関係が7件、ナースコール関係が3件となっており、ベット、ショートステイ用TV、共有部 ロールカーテンがともに2件で続いている。

施設開設当初から13年余が経過して、エアコン設備に加え、ナースコール・電話設備でも修理部品の調達課題になりつつある。様々な修理依頼がある中、利用者にご迷惑をおかけしないよう対応していきたいと思う。

■相談支援係

- ・サービス等利用計画案及びサービス等利用計画の作成
- ・継続サービス利用支援の作成
- ・サービス利用調整
- ・かたくりの里生活支援・入所支援係、地域支援係と連携
- ・西蒲区自立支援協議会、西蒲区ケース検討会への参加
- ・西蒲区健康福祉課障がい福祉係、新潟市障がい福祉課と連携
- ・新潟市障がい者基幹相談支援センター、市内相談支援事業所、新潟市地域包括支援センターと連携
- ・新潟市計画相談支援研究会への参加

【反省・課題】

- ・特定の利用者への対応時間が長くなってしまい、他の方のモニタリングが遅れてしまう事があった。
- ・計画を作成する上で、障がい特性に関する知識の必要性を感じた。
- ・障がい福祉サービスを含むさまざまな制度に関する知識不足を実感した。
- ・その時々での利用者の状態を確認し、サービスの量を見直していく必要があった。
(特に、介護保険への移行を控えた利用者に対して)

業務委員会

■職員の業務分担としての委員会活動報告

□権利擁護

平成28年度中期方針に基づき、虐待防止及び対応の体制作りをすすめた。

1. 苦情・要望

	内容	件数
4月	施設に対して	2件
	他利用者に対して	2件

	介助方法や介助内容に対して	2件
5月	施設に対して	3件
	他利用者に対して	1件
6月	介助方法や介助内容に対して	1件
7月	他利用者に対して	2件
	介助方法や介助内容に対して	1件
8月	施設に対して	2件
	他利用者に対して	1件
	介助方法や介助内容に対して	1件
9月	その他	1件
10月	介助方法や介助内容に対して	1件
11月	他利用者に対して	1件
12月	施設に対して	1件
	介助方法や介助内容に対して	1件
1月	介助方法や介助内容に対して	1件
	施設に対して	1件
3月	介助方法や介助内容に対して	3件
計	年間苦情・要望件数	27件 (全て解決)

- ・毎月の職員会議において、苦情・要望内容の報告を実施した。
- ・苦情・要望内容と1ヶ月後の評価を、毎月第三者委員へ報告を行った。

2. 虐待防止対策

- ①平成28年8月に職員による入所者への身体的虐待の疑いがあり、新潟市へ通報した。
新潟市による聞き取り調査の結果、虐待の事実は認められなかった。
- ②虐待防止講習会の開催
新潟市福祉部障がい福祉管理係 高橋係長 他2名にお越し頂き、虐待防止に関する施設内講習会を開催した。
- ③虐待の防止に関する組織作り
虐待防止マネージャー研修へ職員を派遣した。
虐待防止マネージャーを配置し組織するために、来年度も引き続き虐待防止研修会へ受講する。
- ④身体拘束等の廃止に向けた取り組み
毎月の職員会議において、身体拘束等に関する報告を実施した。
個別支援計画に組み込み、定期的に解除方法の検討を行った。
今年度の身体拘束解除状況……入所者2名の身体拘束を解除した。
- ⑤虐待のチェックリスト
業務の振り返りチェックシート実施……2月実施
- ⑥不適切な支援に関する報告について
 - ・権利擁護ボックスをスタッフルームに設置し、意見の吸い上げを行った。
 - ・不適切な支援に関する報告マニュアルを作成した。
 - ・報告があった場合は、業務検討会で内容について議論し、その結果を職員会議にて報告し周知

した。

3. 権利擁護対策

①権利擁護に関する啓発活動

意識向上ポイント(毎月の職員会議にて報告)

4月	個人情報の取り扱いについて
5月	整理整頓についての心がけ
6月	苦情の対応について
7月	障害者を虐待から守る
8月	働く人のためのメンタルヘルス①
9月	働く人のためのメンタルヘルス②
10月	接遇について
11月	権利擁護シートについて
12月	基本的なマナーを守っていますか?①
1月	基本的なマナーを守っていますか?②
2月	虐待について①
3月	虐待について②

②ストレスチェックの実施・・・8月実施

③メンタルヘルス活動・・・10月実施

④成年後見制度利用支援

- ・市長申立てでの成年後見制度利用支援を1件行い、成年後見人が就任した。その旨を職員会議にて報告し、ケース記録に残すことで全職員への周知を行った。
- ・施設として成年後見人との連携を図り、また、利用者ご本人の意志確認の為、月1回以上の面談の同席や電話連絡を行った。利用者に特変があった場合は早急に連絡を行い、情報の共有を行った。
- ・金銭に関して月1回、出納帳の確認を成年後見人と行い、金銭の出し入れが適正に行われているか確認を行った。

⑤障害者差別解消法の理解

「新潟市障がいのある人もない人も共に生きる街づくり条例」について新潟市の障がい福祉課の竹中様にお越し頂き、講習会を開催し理解を深めることができた。

⑥入所者の預り金の管理について

新潟市の監査指導に基づき、入所者の預り金についての報告を四半期に1度、入所者・ご家族に確認した。

【反省・課題】

- ・継続して啓発活動を実施しないと、職員への意識付けができないため、来年度も引き続き啓発活動を実施していく。
- ・今年度、メンタルヘルスケア活動の一貫として職員交流会(食事会)を開催した。一回しか実施出来なかった為、来年度は定期的実施していく。

□安全

【活動内容】

1. 褥瘡対策

入浴時、排泄介助時等に身体の観察を行い、異常発見時はNSの確認後に褥瘡診療計画を作成した。支援員(介助方法)管理栄養士(栄養強化の有無)NS(処置方法)OT(移乗、座位、臥位)について検討し周知した。

年間を通じて6名の利用者に褥瘡が認められた。

- ・発生から1か月で完治した。1名
- ・改善と悪化を繰り返している。1名
- ・現在完治しており、常に予防に努めている。4名

【反省・課題】

職員間の連携により、発見から完治に向けた褥瘡診療計画は速やかに作成されており、それに基づいて対応をすることによって、ほとんどの方は短期間で完治することができた。しかし、なかには同様の場所に何度 も褥瘡ができてしまう方がおられるため、今後は、予防に努めるとともに褥瘡ができる根本的な原因を探って いかなければならない。

2. 特定行為

事業者登録申請を行い、事業を開始し、現在は介護福祉士認定特定行為従事者により、研修を終了した2名の利用者に対しての特定行為を行っている。利用者のレベル低下に伴い、胃瘻造設者及び喀痰吸引を必要とされる利用者も増えてきているため、今後は特定行為の対象者全員に対応できる体制を整えていきたい。

3. 事故報告集計

発生件数3件

①<内容>59歳男性。浴室の特殊浴槽用ストレッチャーからの転落による、左前額の挫傷、鼻及び両足親指の出血。職員がその場を離れた際サイドフェンスが倒れて転落。意識明瞭、救急車で病院へ搬送後、頭部MRIを施行、脳出血や脳挫傷はなし、左前額は縫合し鼻及び両足親指はガーゼ保護の処置を行い帰園された。

<対策>全介護職員に向けて入浴マニュアルをもとに、特殊浴槽の安全な使用方法について周知徹底を行う。サイドフェンスは壊れていた為修理を行った。

<経過>その後以前と変わらない施設生活をおくられている。今後もマニュアルに沿った入浴介助を徹底し行っていく。

②<内容>64歳女性。他利用者の薬を職員が誤って誤薬する。看護職員に報告し服薬した薬の確認を行う。服薬直後の本人の体調は特変なし。調剤薬局に確認し本来服薬する予定だった薬を服用して頂く。

<対策>薬を配る際は必ず声を出して名前・顔・いつの薬(朝、昼、夕)なのかを確認することを周知徹底する。

<経過>その後本人特変なし。引き続き対策を徹底して行う。

③<内容>54歳男性。居室内にて落ちていたビニール片を床から拾い上げて口にいった。職員が見つけた吐き出すように促したが飲み込んでしまう。(幼少期より異食があった)主治医に報告し指示を仰ぐ。様子観察するように指示を受ける。

〈対策〉居室にゴミを残さないようゴミ箱を撤去、栄養補助飲料はコップに移し職員が見守りを行い飲んでもらう。

〈経過〉その後本人特変なし。引き続き対策を徹底して行う。

4. ヒヤリハットレポート集計

発生件数 119件

〈発生場所〉

場所	居室	食堂	浴室	トイレ	リハ	デイ	その他
件数	67	15	8	9	1	5	13

〈形態〉

形態	転倒	転落	誤嚥	誤薬	管抜去	離設	その他
件数	39	28	4	14	6	4	27

〈要因〉

要因	確認不足	技量不足	状態把握不足	環境整備不足	利用者不注意	その他
件数	23	6	48	6	21	19

【反省・課題】

救急搬送を含む事故が3件発生。前年度に比べて件数が2倍近く増えてしまった。

居室での発生が倍近くに増えた事から、その理由に利用者のADL低下も考えられる。また、同じ利用者が何度も繰り返している事もある為、改めて利用者の状態を把握し、環境見直し、整えていく事で、被害を最小限に抑えたい。又、職員の確認不足、状態把握不足も多い為、職員間でも情報を共有し、連携を高め、再発防止に努めたい。

5. 感染症対策

①ノロウイルス食中毒対策

・施設内消毒の実施

今年度も、年間を通して、スーパー次亜水で施設内の消毒を行った。

施設内研修を2回開催し、汚物処理方法、消毒方法、手洗いの方法を説明した。

・疑わしい症状のある職員には、症状が治まるまで出勤を控えてもらった。

医師から胃腸炎と診断された職員は1名であった。

今年度も施設内でノロウイルス食中毒の発生を予防できた。

②疥癬対策

・疥癬感染者はいなかった。

③インフルエンザ対策

・新潟県感染症情報(週報)をチェックし、警報基準に達した時は、手洗いとうがいの励行を呼びかけた。利用者、職員に感染者はいなかった。

【反省・課題】

今年度は、県内のインフルエンザ、ノロウイルス食中毒ともに大流行はなく、また、施設内においても感染者が出なかったのが安心しているところである。来年度も継続して予防に努めたいと思う。

6. 腰痛予防対策検討

安全委員会が腰痛等予防対策担当し、生活向上委員会が福祉機器の導入検討・使用方法の周知について担当する。

□生活向上

1. 入浴

【活動内容】

- ・入浴日程表の更新、見直し
- ・入浴日、入浴時間の変更、検討
- ・入浴チェック表の作成
- ・物品の管理
- ・浴室環境整備
- ・マニュアルの更新

【反省・課題】

・職員不足により、入浴日や時間を変更したりしながら対応してきた。来年度は、大幅に入浴の順番などの変更を検討して行く予定だが、今後も入浴を利用される方が安心・安全に利用できるよう努めていきたい。

2. 排泄

【活動内容】

- ・オムツ交換時間の見直し、変更
- ・排泄チェック表の作成
- ・オムツ・パットの管理
- ・毎週のオムツ・パットの発注
- ・使用オムツの見直し

【反省・課題】

オムツ交換の時間を見直すことによって、他の業務もスムーズに行えるようになった。今後は新しいオムツの使用も含め、さらに検討して行きたい。また、オムツの無駄遣いをなくす取り組みにも力を入れていきたい。

3. 食事

【活動内容】

- ・食席の見直し、変更
- ・職員の人員配置の変更
- ・テーブルの見直し、環境整備
- ・居室配膳方法の変更
- ・月一回給食会議への出席
参加利用者の出席を促す

- 利用者から出た食事に関する意見の収集
- ・2月、3月に行われた鍋料理の食席の決定
- ・食席や食事に関する苦情、要望にその都度対応した。

【反省・課題】

食事介助の人員確保の為、食席の変更や環境を整え人員を配置した。
今後も利用者、職員の意見をもとに、より良い食事環境を整えていきたい。

4. 整容

【活動内容】

- ・マニュアルの更新
- ・顔拭きタオル利用者のチェック表作成・管理(髭剃りを含む)
- ・爪切りチェック表作成・管理
- ・理容室利用者の調整(月2回)
- ・美容室利用者の調整、美容室との連絡調整(A社・・・月1回、B社・・・2ヶ月1回、C社・・・月2回)
- ・整容に関わる備品の整備
- ・口腔清掃の介助を行っている方のチェック表作成、管理
- ・口腔ケア用品の発注、管理
- ・歯とお口の治療管理表の伝達、管理
- ・歯磨き時の注意事項がある利用者は居室に「歯磨きの注意点」の図の掲示
- ・訪問歯科の訪問日の調整(管理栄養士)

【反省・課題】

- ・来年度より理美容が1社増えるが、今後も職員間で連携をとりスムーズに利用できるよう配慮する。
- ・歯科受診の際に頂く歯とお口の治療管理表を支援に活用していきたい。

口防 災

【活動報告】

日付	実施内容	備考
4月	春季夜間想定避難訓練の打ち合わせ、説明	
5月	春季夜間想定避難訓練 春季避難訓練の反省と火災防火設備の説明 (火災報知器、消火栓、防火扉等) 岩室駐在所袖山巡查部長による施設内巡回の実施	参加者7名
7月	緊急連絡網訓練(メール)	
9月	秋期総合避難訓練の打ち合わせ、説明 西蒲警察署による刺又の取扱い講習会の実施	
10月	秋期総合避難訓練	参加者12名
12月	火災報知器の取り扱い説明 洪水時等の避難確保訓練	
1月	緊急連絡網訓練(電話)	20時スタート
3月	非常通報装置の設置	

【反省・課題】

- ・5月の利用者と施設の話し合いにて入所者の防犯についての意識を高めるために、岩室駐在所 袖山巡查部長にお越し頂き、施設内を巡回して頂いた。今後も連携していきたい。
- ・相模原の事件を受け、防災の他に防犯分野も受け持つことになった。年度末に国の補助を受け、非常通報装置の設置を行ったので、来年度は防犯設備の説明を行い、使い方の周知徹底をしていきたいと思う。
- ・トランシーバーを使った避難訓練の際、うまく聞き取れない事があったので電波の範囲の確認と共に、他の連絡方法も検討して行きたい。

□環境整備

1. 備品

【活動内容】

- ・消耗品の発注と管理、購入手配
- ・介護用品の管理、発注
- ・故障、破損物など修理依頼
- ・備品倉庫管理
- ・備品管理簿、備品貸出表の管理
- ・衣類紛失チェック表の管理

2. 環境整備

【活動内容】

- ・利用者の日常生活における環境整備、向上、職員業務の円滑さを目的とし、施設内環境整備、週間清掃、洗濯室掃除等の業務を遂行する

年間活動

4月10～11日	廊下、居室のワックス清掃
4月22日	サッシ、網戸清掃
5月18～27日	ベッドパッド、枕、布団交換（冬→夏）
6月1～30日	衣替え
6月10日	エアコンフィルター及び換気扇パネル清掃
7月15日	カーテンクリーニング(取り外し)
7月22日	カーテンクリーニング(取り付け)
8月1～31日	夏季大清掃
8月21～22日	廊下ワックス清掃、
10月1～31日	衣替え
10月14日	サッシ・網戸清掃
10月19～28日	ベッドパッド、枕、布団交換（夏→冬）
12月1～31日	冬季大清掃
12月11～12日	廊下、居室のワックス清掃
3月1～31日	備品管理簿チェック

夏季期間除いて……廊下、食堂の空気清浄加湿器フィルター清掃

【反省・課題】

- ・時間に余裕が無く、南側2F階段の踊り場に置いてあるファンヒーター、扇風機等のメンテナンス、整理整頓が出来ずに終わってしまった。
- ・委員会としての大まかな業務をこなす事で手一杯で、施設内のこまかい環境の整備(例えば棚や収納ケース、必要備品等)まで気付かない点が多々あった。

□研 修

1. 研 修

平成28年度中期方針に基づき、「多様化する障害への対応」として高次脳機能障害等に関する研修会へ職員を派遣した。

①施設外研修

日 時	研修・会議内容	場 所	出席者
4月14日	給与・人事考課制度構築講座	新潟ユニゾンプラザ	増田・近藤
4月15日	第1回岩室地域保健福祉情報交換会	岩室健康センター	増田・星野
4月16日	新潟県相談支援員協会設立研修会	燕三条地場産センター	星野・相浦
4月25日	労務・人事セミナー	NEXT21	近藤
6月10日	東新潟特別支援学校オープンスクール	東新潟特別支援学校	相浦
6月13・14日	関ブロ身障協第1回総会・施設長会議 関ブロ職員支援力アップ勉強会	パレスホテル大宮	増田・亀山
6月21日	福祉サービス苦情受付担当者研修会	ハイブ長岡	藤口
6月22日	安全運転管理者等講習	西蒲地区交通安全センター	増田
6月24日	県身協第1回総会施設長・庶務課長会議	ニューオータニ長岡	増田・亀山
7月5日	社会福祉施設労働災害防止研修会	新潟労働局	増田・亀山
7月6日	危険物取扱者保安講習	新潟テクノスクール	増田
7月8日	下越地区県身協オセロ交流会	新潟ふれ愛プラザ	堤・渡辺
7月11日	第1回高次脳機能障害ケース検討会	精神保健福祉センター	星野
7月16日	第4回子どもの発達研修会	新潟青陵大学	相浦
7月21・22日	第40回全身協研究大会	名古屋国際会議場	増田
7月26日	衛生管理指導会	新潟市民プラザ	五十嵐
7月28・29日	社会福祉士実習指導者講習会	燕三条地場産振興センター	高橋(達)
8月4・5日	コミュニティーソーシャルワーク養成研修	新潟ユニゾンプラザ	相浦
8月8・9日	職場研修担当職員研修前期コース	新潟ユニゾンプラザ	亀山
8月24日	障がい者関連施設防犯対策等研修会	新潟市役所本館	増田
8月26日	県身協職員研修会	ニューオータニ長岡	熊谷
9月2日	新潟県相談支援従事者現任研修前期	新潟県自治会館	星野
9月6日	地域福祉コーディネーターフォローアップ研修	黒崎市民会館	相浦
9月7日	パザーに係る食品衛生講習会	白根学習館	五十嵐
9月16日	栄養・嚥下ケアマネジメントミーティング	県立吉田病院	五十嵐
9月28日	若手育成セミナー	新潟ユニゾンプラザ	増田
9月29・30日	第37回関ブロ施設職員研修大会	ANAクラウンプラザホテル新潟	吉田・斉藤
10月4日	栄養管理指導会	新潟市民プラザ	五十嵐

10月4日	県身協下越地区スポーツ交流会	新潟ふれ愛プラザ	堤・相浦
10月14日	県身協支援担当課長会議	ニューオータニ長岡	亀山・堤
10月18日	精神障がい者地域移行・地域定着支援研修会	新潟市総合保険医療センター	星野・相浦
10月19・20日	新潟県障害者虐待防止・権利擁護研修	新潟県自治会館	堤・藤口
11月1日	障がいとアートつくるに関する法律研修会	ハードオフエコスタジアム	吉田
	成年後見人制度市町村長申立推進研修会	新潟ユニゾンプラザ	相浦
11月1・2日	新潟県相談支援従事者現任研修後期	新潟県自治会館	星野
11月7日	第2回高次脳機能障害ケース検討会	精神保健福祉センター	星野
11月10日	第37回関ブロ職員研修大会実行委員会	ニューオータニ長岡	増田
11月11日	短期入院協力病院・施設意見交換会	JA長野県ビル	増田
11月14日	知的障害者福祉協会全県会員研修会	ニューオータニ長岡	増田
11月18日	県身協庶務担当者会議	ニューオータニ長岡	田村
11月18日	関ブロ施設長会議	新霞が関ビル	増田
11月19・20日	にいがたフォーラムin長岡	アオーレ長岡	増田
11月22日	スキルアップ研修	新潟医療福祉カレッジ	海津
	年末調整説明会	燕市吉田産業会館	田村
11月24日	災害福祉広域支援セミナー	朱鷺メッセ	増田
11月25日	重症児者を支援する関係者の勉強会	長岡療育園	亀山
11月29日	障害児・者相談支援フォーラム	燕三条地場産センター	相浦
11月30日	ノロウィルス食中毒予防セミナー	新潟市民プラザ	五十嵐
	相談援助スキルアップセミナー	燕三条地場産センター	星野・相浦
12月13日	モチベーションアップ研修	燕三条地場産センター	増田
12月18日	若年性認知症普及啓発セミナー	新潟県庁	増田
1月25日	応急手当普及員再講習	新潟市消防局	増田
1月26・27日	第16回地域生活支援推進研究会議	タイム24ビル	増田
2月1・8・15日	応急手当普及員講習	南消防署	亀山
2月3日	精神医療・保健・福祉関係者セミナー	朱鷺メッセ	亀山・相浦
2月8日	障がい福祉サービス事業者集団指導	江南区文化会館	増田
2月10日	新潟市障がい福祉事業管理者連絡会	万代シルバーホテル	増田・星野
2月14日	第4回新潟市計画相談支援研究会	江南区福祉センター	星野・相浦
2月17日	相談援助実習報告会	新潟医療福祉大学	星野
2月23・24日	関ブロ第2回総会・第3回施設長会議	軽井沢プリンスホテル	増田
2月24日	社会福祉士実習指導者フォローアップ研修	新潟ユニオンプラザ	星野
2月27日	高次脳機能障害ケース検討会	精神保健福祉センター	亀山
2月27日	新潟県サービス管理責任者現任研修	新潟県自治会館	田川
3月1日	災害福祉サービス支援チーム研修会	新潟ユニゾンプラザ	増田
3月3日	県身協第2回総会・施設長・庶務担当課長会議	ニューオータニ長岡	増田・亀山
3月14・15日	身障協第29回経営セミナー	新霞が関ビル	亀山
3月21日	新潟県障害者権利擁護セミナー	新潟ユニゾンプラザ	増田
3月23日	障がい者総合支援法等関係説明会	新潟市民プラザ	星野

②施設内研修

開催月日	研修名	講師名	参加人数
5月2日	スタンディングマシーン実演	アビリティーズ 大竹様	5名
5月16日	安楽な嚙下の為の姿勢調整の視点	田宮病院 山崎様	23名
6月8日	食中毒について	五十嵐管理栄養士	10名
6月15日	食中毒について	五十嵐管理栄養士	5名
6月21日	障害者虐待防止法の理解と対応	権利擁護委員会	15名
7月22日	特殊入浴装置のリスクマネジメントについて	OG技研 上田様	12名
8月19日	新潟市虐待防止対策講習会	新潟市障がい者虐待防止専門員 長谷川様 他2名	30名
12月8日	感染症予防対策について	五十嵐管理栄養士	7名
12月9日	感染症予防対策について	五十嵐管理栄養士	3名
12月20日	新潟市障がいのある人もない人も共に生きる街づくり条例について	新潟市障がい福祉課 竹中様	19名

- ・新人研修マニュアルの見直し、作成。
- ・新人教育チェックシートの見直し、作成。
- ・個別支援チェック表の見直し、作成。

【反省・課題】

今年度は高次脳機能障害の研修へ職員を派遣した。
施設内研修については記録用のフォーマットを作成し、記録した。

2. 実習生受け入れ

期間	学校名	実習名	人数
5月19日～ 6月22日	新潟医療福祉カレッジ	介護実習	1名
8月22日～ 9月22日	国際こども・福祉カレッジ	相談援助実習	1名
8月31日～ 9月30日	新潟医療福祉大学	相談援助実習	1名
10月24日～11月24日	国際こども・福祉カレッジ	相談援助実習	1名

【反省・課題】

- ・新人教育マニュアルを作成したので、新規採用職員向けに来年度実施していきたい。
- ・例年に比べ、実習生の依頼が少なかった。実習生受け入れマニュアルを活用したことで、スムーズに受け入れを行うことができた。

□日中活動

1. 日中活動

【活動日】 日中活動予定表に沿って実施

【活動時間】13:45～14:45

【活動場所】各項目に記載

【感想・反省】

- ・日中活動への誘導を遅番に固定したことによって誰が誘導するのかが明確になった。

・担当制にしたことによって、同じ行事を同じ曜日にやる頻度が上がってしまった。

①カラオケ

【活動内容】(地域交流スペース)

カラオケ機を起動させ、自分で持てる方にはマイクを持っていただき歌っていただく。自分でマイクを持つことが難しい方には職員が介助する。

【感想・反省】

毎回参加者も多く、盛り上がっていた。利用者同士でデュエットしたり、思い思いに楽しんでいた。マイクの臭いが気になるとの要望聞かれた為、1回ごとに清拭にて対応。

②スポーツレクリエーション

【活動内容】地域交流スペース

風船バレー、カーリンコン、ポッチャ

【感想・反省】

職員の配置を担当制にしたことによって中止になることが少なくなった。

③マッサージ

【活動内容】各居室、及び食堂

日曜日に利用者のマッサージや保湿剤の塗布、足浴等を行った。

【感想・反省】

冬場に足浴で温まり、マッサージを受けられることで好評であった。

④映画

【活動内容】1階会議室

利用者からのリクエストを中心に映画を上映する。

【感想・反省】

様々なジャンルの作品を上映し、参加者に楽しんで頂けた。

音響環境などに関してスピーカーの購入を検討して欲しいとの要望もあった。

⑤手工芸

【活動内容】

季節の壁面や飾り作り、染め物、イベント販売品作りなどを月1回のペースで行った。

【感想・反省】

・季節の壁面作りは、他利用者からも好評であったので、続けていきたい。

・職員不足の中、多くの手を必要とする手工芸の実施は難しいと思われたが、自主的に手伝いをしてくれる職員に助けられた。利用者のもので作りや表現の場として継続していけるように、十分な準備と利用者に応じた作業活動の提供をしていけたらと思う。

⑥書道

【活動内容】地域交流スペース

・自由発想(手本なし)で書く。

・手本を基に書く。

上記いずれかの方法で書いた作品を施設内に展示し、施設外の作品展に出展した。

【感想・反省】

・参加者は思い思いに書道を楽しんでいた。

・今まで、ひらがなを上手く書けなかった利用者がひらがなも漢字も書けるようになったのは、書道に参加して字を書いていたからだと思うので、これからも支援していきたい。

・回を重ねるごとに参加数が減少しているように思った。利用者の体調不良が原因と思われる

⑦調理レク

【活動内容】日中活動スペース

職員、利用者と共同で調理を行い、出来上がったものをおいしく頂く。

実施日	実施内容	参加者
4月14日(木)	いちごのクレープ	37名
5月18日(水)	とろける牛乳プリン	26名
6月14日(火)	パフェ	36名
7月15日(金)	かるぴすシャーベット	33名
8月17日(水)	雪見だいふく	30名
9月20日(火)	どら焼	34名
11月15日(火)	芋きんつば	31名
12月12日(月)	ケーキのデコレーション	31名
1月23日(月)	フレンチトースト	27名
2月17日(金)	ティラミス	24名
3月15日(水)	クッキー	25名

【感想・反省】

普段、日中活動に参加しない利用者も調理レクには参加して下さるので、みなさんの楽しみになっているのだなと思い、なるべく利用者の参加数が増えるようなメニューを考えている。難しそうなメニューもあるが利用者には可能な範囲で調理してもらっている。

利用者のADLを考慮したメニューとなると限りがあり、利用者の満足度が低下するのか参加者が減る。以上のことを踏まえて次年度も同様に利用者の楽しみとなる調理レクを行っていきたい。

2. 外出支援

【活動内容】

利用者の外出希望アンケートをとり、外出の実施を計画した。(日程、メンバー、車両の確保など)

日付	行先	参加者
4月	丸小山公園	2名
5月	巻方面、マリンピア日本海、イオン新潟南	3名
6月	吉田方面、アピタ新潟西、イオン青山、黒崎方面、イオン新潟西、	7名
7月	白根方面、イオン新潟南、吉田方面、イオン新潟西、豊栄道の駅	5名
8月	弥彦方面、イオン新潟西	3名
9月	寺泊方面、吉田方面、	3名
11月	亀貝方面、弥彦方面	3名

【感想・反省】

職員不足もあり、計画を立案しても、実行に至らず、延期することが多く、また、今年度中に外出支援希望者に対し、実行できなかった。

3. 施設行事

①運動会 6月実施

内容:玉入れ、借り物競争、パン食い競争、混合リレー

【感想・課題】

楽しかったと入所者からの意見が聞かれた。当日の勤務者に事前に役割や流れを伝えていたが、把握不足による混乱があった。運動会自体は盛り上がったが改善点は多く、次年度に生かしたい。

②かたくり祭 10月実施

内容:ボランティアによるイベント(よさこい・キッズダンス)、他福祉施設による販売・ワークショップ、飲食類販売。作品展示。全体をハロウィンで装飾する。

【感想・課題】

昨年度同様に地域からも多数の観覧者に来ていただき、少しずつ定着していると感じた。大きな混乱はなかったが、事前に「施設と利用者の話し合い」で食券の取扱を伝えていたが、話し合いに参加していない方に対しての周知不足もあり、再検討が必要。職員不足もあり、入所者からゆっくりと回れなかったと意見があり、改善に努めたい。

③クリスマス会 12月実施

内容:ボランティアによる歌 ケーキ選択

【感想・課題】

ゲームをしたかったとの声もあったが、クリスマスソングを含めた歌を聴くことで、クリスマスの雰囲気を楽しめたとの声が多く聞かれた。また、職員が加わった時により利用者からの反応が上がり、ボランティアに頼るばかりではない方が良いと感じた。

4. 施設外行事

①共生フォーラム

【日時・場所】10月22日(土)巻地域保健福祉センター

【活動内容】

- ・事前会議参加(職員のみ)
- ・作品展示の提供と前日、当日の会場準備
- ・当日参加利用者2名、付き添い職員2名、会場手伝い職員1名で対応。
障害を持つ方のステージイベントの見学や条例の説明会、もの作りワークショップ等に参加した。

【感想・反省】

- ・職員の人員不足により利用者を2名としたので、参加希望されていてもお断りした利用者が出てしまった。なるべく多くの利用者が希望通り参加できるようにしていきたい。
- ・かたくりの里の作品を熱心に見られている方もおられ、利用者の活動をアピールする場として、来年度も参加、協力していきたい。

②オセロ交流会

平成28年度、県身協オセロ交流会を開催した。

【感想・反省】

当番施設として関わり、滞りなく運営できた。今年度は問題なかったが、参加利用者のトイレ介助に人手が取られることも考慮した人員配置は必要。

③スポーツ交流会

平成28年度、県身協スポーツ交流会に参加。

【感想・反省】

3位に入所し、利用者も喜ばれていた。会場に向かう道中、車酔いしやすい方に対しても、配慮することで、問題なく参加を促すことができた。

5. ボランティア

【活動内容】

ボランティア行事・施設行事の際のボランティアの依頼。

入居者利用の、傾聴ボランティア補助。

個人ボランティアの活動のサポート

	活動内容	ボランティア人数
5月	マンドリン演奏会	2名
	運動会ボランティアの依頼	5名
6月	お茶会	8名
7月	マンドリン演奏会	2名
	音楽ボランティア	6名
	夏祭りボランティアの依頼	3名
9月	かたくり祭ボランティアの依頼	4名+2団体
11月	マンドリン演奏会	2名
	カーリンコン交流会	4名
12月	クリスマス会ボランティアの依頼	3名
	門松作り	6名

【感想・反省】

各ボランティア行事に関して、多くの利用者が参加され好評だった。傾聴ボランティアのサポートに関しても大きな問題なく終わった。ボランティア行事、傾聴ボランティアのサポート等円滑に行えるよう引き続きサポートしていきたい。

参加ボランティアより「にいがたし元気力アップサポーター制度」を利用したい希望聞かれ、新たに障害者支援施設も対象になったことを受けて制度への登録を行った。制度への登録により、ボランティアがかたくりの里での活動を始めるきっかけになればと思う。制度利用者からの問い合わせがあった際にはスムーズに対応できるよう受け入れ体制を整備したい。

6. 購買

・毎週月曜(むつみ屋)、火曜日(リハビリ病院売店)に購入希望のファックスを送り、水曜日(むつみ屋)、土曜日(リハビリ病院売店)に品物を受け取る際に、支払等の援助を行った。

・ウェルケアビューティー様より施設に来て頂き、衣料品販売を行った(年2回)。

【感想・反省】

・日用雑貨から嗜好品までほぼ購入出来ており、問題なく行えている。

・衣料品に関しては昨年度の反省から、年2回実施したが、金額が高いとの意見が多く、1回目に

比べ、2回目に参加した利用者が減少した。来年度、業者の再検討をしていくことも必要である。

7. 自治会

【活動内容】

毎月、第4週目「利用者と施設の話し合い」を実施。実施する為の準備。

月間予定表の貼り出し。

話し合い内容

実施日	参加数	内容
4月27日	28名	空調機、介護職に伴う補充について
5月25日	29名	すこやか福祉会人事、岩室駐在所、日中活動委員会からの報告
6月23日	30名	すこやか福祉会人事、空調機不具合、不在者投票について
7月27日	28名	権利擁護の取り組み、夏祭りについて
8月26日	35名	介護職退職、防犯対策について
9月23日	29名	職員勤務体制、防犯対策、かたくり祭について
10月27日	27名	総合避難訓練、防犯対策について
11月22日	30名	施設利用者退所、職員の動向、空調設備について
12月22日	36名	空調設備、餅つき会について
1月24日	29名	職員の動向、利用者の文芸活動の報告
2月22日	25名	職員の動向、防犯対策、緊急通報装置の設置工事について
3月24日	32名	職員の動向について

□情報管理

【活動内容】

月	情報管理	広報
4月	新年度業務マニュアルの発行	かたくり通信38号発行
5月		写真掲示・印刷・配布
7月		写真掲示・印刷・配布、かたくり通信発行準備
8月	ほのぼのmoreへ移行	かたくり通信39号発行
9月		写真掲示・印刷・配布
11月		写真掲示・印刷・配布、かたくり通信発行準備
12月		かたくり通信40号発行
1月	かたくりの里業務マニュアル更新	
2月		
3月	かたくりの里業務マニュアル編集	写真掲示・印刷・配布、かたくり通信発行準備

※通年

- ・書類整理・管理、スタッフルームホワイトボード管理、かたくりの里ホームページ管理
- ・行事の際の写真撮影
- ・行事ポスターの作成

※随時

- ・かたくりの里facebookの更新
- ・すこやか福祉会ホームページの更新

【反省・課題】

- ・昨年度から導入した広報誌作成ソフトにより作成したかたくり通信が、外部施設や事業所からご好評を頂き、中には作成方法を見学に来られる事業所もあった。
- ・すこやか福祉会のホームページからかたくりの里の情報を更新できるようになった。来年度は行事ごとに更新し、かたくりの里での活動をアピールしたい。
- ・利用者支援に関する個人情報(フェースシート、ADL表等)の更新が滞ってしまった。来年度は個別支援計画のカンファレンスに組み入れ、確実に情報を更新できるシステム作りにつなげたい。

□業務検討会

【活動内容】

平成28年度中期方針に基づき、第三者評価基準・ケアガイドラインから、かたくりの里が取り組まなければならない事、施設としてあるべき姿の想定、サービス向上、業務の効率化等の課題や、運営項目についての議題を抽出し、改善点として提案した。課題やテーマの提案や改善は業務検討会において、PDCAサイクルを意識して改善計画、実施計画・実行・評価・改善、是正処置を実施した。

1、第三者評価・ケアガイドラインの活用について

全身協のまとめたケアガイドラインについて職員に周知した。

チェック項目を「食事・入浴」に絞り、全生活支援員に実施し、集計した。

抽出された課題について、検討しているが、解決に至らないため、引き続き検討していく。

2、改善報告シートにて改善提案を行ったもの

ケアガイドラインにより抽出された課題について、検討を重ねたが、報告まで至らなかった。

3、検討内容

- ・支援が困難な利用者の対応について
- ・虐待が起きた場合の対応について
- ・不適切なケアに関する報告について
- ・職員の買い物代行について
- ・職員の手荒れ予防のためのハンドクリームの使用について
- ・お正月の餅の提供について
- ・コスト削減に関する検討(ペーパータオル、紙オムツの見直し)
- ・新規理美容サービスの利用について
- ・入浴前のバイタルチェックについて
- ・空調機入替工事に伴う食堂閉鎖について
- ・安全な食事環境の検討
- ・コール対応マニュアルの作成について
- ・使い捨ておしぼりの検討
- ・タイマーの活用について

【反省・課題】

ケアガイドラインの活用方法を改めて検討した。職員にすべての項目をチェックしてもらうことは負担があると考え、チェック項目を絞りチェックを実施・集計した。抽出した課題について、検討を重ねたが、

改善報告シートにまとめるまで至らなかった。今年度も第三者評価の自己評価の取り組みを進めることができなかった。

検討内容は毎月様々な課題があがったが、PDCAサイクルに沿って検討することができなかった。来年度はPDCAサイクルを更に意識し取り組んでいきたい。

6 外部行事参加状況

■下越地区県身協オセロ交流会

平成28年7月8日(金) 新潟ふれ愛プラザ(新潟県障害者交流センター)

<参加者> 3名(1チーム)

<結果> 準々決勝敗退

<感想・反省>

今年度は当番施設のため、4月頃より準備をすすめた。当日は試合の時間設定がうまくいかず、時間が予定より超過してしまうこともあったため、余裕を持った試合スケジュールが必要であった。

全体的には、準備段階から本番まで円滑に準備できた。

■下越地区県身協スポーツ交流会(ポッチャ)

平成28年10月4日(火) 新潟ふれ愛プラザ(新潟県障害者交流センター)

<参加者> 3名(1チーム)

<結果> 3位入賞

■たすけあい・ささえあい・共生フォーラムin西蒲

平成28年10月22日(土) 巻地域保健福祉センター

<参加者> 2名

7 補助金・助成金 事業報告

■平成28年度結核予防費補助金 18,144円

■非常通報機新設工事補助金

新潟市補助 135,000円

国庫補助 270,000円